

Before I graduate, I Want to...

“Before I graduate, I want to be able to speak English fluently,” “I want to go abroad,” “I want to become popular.”

慶應義塾大学日吉キャンパスに置かれている大きなボードは、白いチョークで書かれた沢山の言葉で埋めつくされている。学生たちが卒業までに実現したいことを匿名でこのボードに書き残していく。「Before I graduate」と名付けられたこの企画を始めたのは同大学の二年生である、関根寛尚さんだ。

彼はこの企画の基となった「Before I die project」を世界中で視聴される講演会であるTEDを見て知った。アメリカ人アーティストであるキャンディー・チャンが親しいひとの死をきっかけにこの活動を始めた。チョークという身近なものを使って個人の考えや思いを公共の場で共有する試みを続けてきた。世界各国で行われているプロジェクトが日本や他のアジアの国々では行われていないことに疑問を持った関根さんは、アジアで初めてこのプロジェクトを行うことで、その輪を広げたいと考えた。

関根さんは「死ぬまでに成し遂げたいこと」ではなく「卒業するまでに成し遂げたいこと」をテーマにした。学生が卒業するまでに成し遂げたいことを共有する機会を作りたい、学生に大学生活をただ楽しむだけでなく何か目標を持って欲しいという思いがあったからだ。また、近い将来を設定した方が、実感が湧くという理由もあった。そこでこの企画を「Before I graduate project」と銘打ち、彼が所属する国際関係会(IIR)が中心となってこのプロジェクトを進めた。

しかし実現に至るまでに困難は多かったと言う。2012年11月から始動するも、実際に実施が決まったのは2013年3月だ。大学側からなかなか許可がもらえず、何度も企画書を提出し直したと言う。その企画書にはプロジェクトの説明、行う理由に加えて、安全性対策や準備の詳細、完成したもののイメージ図まで細かく記す必要があった。

このボードは英語で記入することが基本となっているが、「ビッグになる」など日本語で記入されているものもあった。ともあれ、多くの学生が興味を持って書いていたのは間違いない。

現在、関根さんたちはこのプロジェクトを「Before I die project」本部に発信し、自分たちの活動が正式に認められることを待っているという。

鈴木綾華 吉田薫平